

ニコラ・フィリベール監督による、
精神障害者のデイケアドキュメンタリーが
ベルリン国際映画祭で金熊賞【最高賞】を受賞！



本年度
ベルリン国際映画祭
金熊賞〈最高賞〉受賞



© TS Productions — France 3 Cinéma — Longride — 2022



『アダムン号に乗って』

監督：ニコラ・フィリベール

2022年／フランス・日本／フランス語／109分

原題：Sur L'Adamant／日本語字幕：原田りえ

配給：ロングライド／協力：ユニフランス

精神障害者や、ケアする人に 関心を向け続けてきた ニコラ・フィリベール監督

ニコラ・フィリベール監督は、これまでも精神障害者や医療者をカメラに捉えてきた。例を挙げれば、ラ・ポルト診療所での日常を捉えた『すべての些細な事柄』（1996年）や、看護学生の授業、実習での葛藤を描いた『人生、ただいま修行中』（2018年）など。

そして本作が描くのは精神障害者のデイケアの日常である。第73回ベルリン国際映画祭で金熊賞の栄誉に輝いた本作は、コンペティション部門で唯一のドキュメンタリー作品であり、これまでもドキュメンタリーが最高賞に輝いた例は少ない。

パリ、セヌ川に浮かぶ、 奇跡のような船〈アダムン〉

舞台は、パリの中心地、セヌ川のきらめ

く水面に照らされた、表面積650平方メートルの木造建築の船〈アダムン〉。精神疾患のある人々を迎え入れ、創造的な活動を通じて社会と再びつながりを持てるようサポートするデイケアセンターだ。

カメラは、人々の語らう言葉や表情の奥に隠された、その人そのものに触れていく。深刻な心の問題やトラウマをかかえた人々にも素晴らしい創造性があり、お互いの違いを認め共に生きることがもたらす豊かさが伝わってくる。

ケアチームは、看護師、心理士、作業療法士、精神科医、さまざまな経歴を持つ外部協力者で構成されているが、彼らが一方的にお世話をするのではなく、利用者もスタッフも区別なく、皆が協力してこの魅力的な空間を一緒に作り上げている。

精神科医療の世界に押し寄せる“均一化”、“非人間化”の波に抵抗して、共感的なメンタルケアを貫くこの場所を、ニコラ監督は「奇跡」と称している。



◎4月28日(金) ヒューマントラストシネマ有楽町、新宿武蔵野館ほか全国公開

配給・宣伝は、『ぼくの好きな先生』（2002年）以降、監督と21年の交流を持ち、共同製作として参加している配給会社ロングライド。TEL: 03-6264-4113 FAX: 03-6264-4114 MAIL: pub@longride.jp 公式サイト: <https://longride.jp/adaman/>